まとい

令和8.3.27発行

第53号

第78回長崎県消防団大会（西海市）

長崎市消防出初式 第2会場 一斉放水

第26回全国女性消防操法大会（横浜市赤レンガ倉庫イベント広場）

第30回全国女性消防団員活性化長崎大会

第30回全国女性消防団員活性化長崎大会

令和8年度　全国統一防火標語

火の確認　いい日を支える　いい週間

編集・発行　公益財団法人長崎県消防協会／〒850-8570 長崎市尾上町3－1／電話095-895-2146

消防人
最高の栄誉に輝く各種表彰

おめでとうございます

皆様方には長年にわたり消防業務に精励され、その業績を高く評価されて表彰されました。この栄誉の陰にはご家族のご理解、ご協力があればこそと存じます。心からお祝いを申し上げますと共に、今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

春の叙勲
（令和七年四月二十九日）

瑞宝双光章
元新上五島町消防団副団長　永田　悦弘
元佐世保市消防団団長　中野　篤司

瑞宝単光章
元西海市消防団分団長　石田　直人
元平戸市消防団分団長　梅谷　三郎
元福江市消防団分団長　小川　忠弘
元佐世保市消防団分団長　田中　政已
元長崎市消防団副団長　辻　博文
元長崎市消防団団長　鉄川　恵一
元新上五島町消防団副団長　戸村　若廣
元佐世保市消防団副団長　萩原　隆
元五島市消防団副団長　橋本　忠成
元福江市消防団分団長　宮川　喜善
元壱岐市消防団副団長　村上　三國
元壱岐市消防団副団長　山内　啓
元長崎市消防団副団長　山下　一正

秋の叙勲
（令和七年十一月三日）

瑞宝単光章
元佐世保市消防団分団長　綾香善治郎
元勝本町消防団分団長　香椎　憲正
元松浦市消防団団長　志水　正信
元江迎町消防団副団長　田尻　博逸
元新上五島町消防団分団長　永田　敏明
元新上五島町消防団副団長　中山　利三
元長崎市消防団副団長　西　文雄
元雲仙市消防団副団長　前田　悟
元諫早市消防団副団長　松尾　明人
元長崎市消防団分団長　松村　栄
元五島市消防団副団長　松本　和哉
元佐世保市消防団分団長　溝上　和正
元長崎市消防団副団長　山口　公明
元新上五島町消防団副団長　吉川　孝明

総務大臣表彰
（令和七年七月十日）

安全功労者
本河内２丁目第１・第２女性防火クラブ

消防庁長官表彰
（令和八年三月四日）

永年勤続功労章
波佐見町消防団団長　三石　和広
外三十八名

竿頭綬
五島市消防本部・五島市消防団

県民表彰
（令和七年十一月二十三日）

消防・防災功労
長崎市消防団副団長　高比良　淳
長崎市消防団副団長　山本　国晴
佐世保市消防団団長　石丸美津留
諫早市消防団副団長　今里　浩士
大村市消防団副団長　田添　一也

平戸市消防団地区団長　牧山　茂人
松浦市消防団団長　谷口　哲男
元川棚町消防団団長　石居　敬義

日本消防協会長表彰

（令和八年三月六日）

表彰旗　佐々町消防団
竿頭綬　諫早市消防団
竿頭綬　対馬市消防団
竿頭綬　長与町消防団
功績章　長崎市消防団副団長　山道　浩　外十七名
精績章　平戸市消防団副団長　田中　康嗣　外四十一名
勤続章　西海市消防団副団長　小牟田　勝　外百五十九名

長崎県消防協会長表彰

竿頭綬（無火災）
長崎市消防団第三十三分団、島原市消防団（第九分団、第十分団、第十三分団）、平戸市消防団平戸地区第二分団、松浦市消防団（第七分団、第十四分団）、雲仙市消防団（国見支団第三分団、千々石支団第四分団、小浜支団第四分団）、南島原市消防団（西有家地区第一分団、同地区第六分団、加津佐地区第一分団、同地区第一分団）、新上五島町消防団（新魚目地区曽根分団、上五島地区飯ノ瀬戸分団）

感謝状
退職市町長　野口市太郎　様
前五島市長　杉澤　泰彦　様
前西海市長
退職消防団長
前川棚町消防団長　石居　敬義　様
前佐々町消防団長　坂本　浩人　様
消防事務担当者
前佐世保市消防局総務課　大坪信一郎　様
前壱岐市消防本部総務課　齊藤　寛　様
前五島市消防本部消防課　山口　泰生　様
前西海市防災基地対策課　西村　一哲　様
（以上令和七年度長崎県消防団大会）

特別有功章
時津町消防団分団長　植田慎之介　外二百四十八名
有功章
雲仙市消防団分団長　中野　一徳　外六百二十二名
表彰状
平戸市消防団団員　森　俊剛　外八名
精続章（金・銀）
島原市消防団副団長　松本　明弘　外六百七十三名
感謝状（一号～四号）
元南島原市消防団地区団長　吉田　岳志　外五百五十七名
（以上令和八年消防出初式）

第七十八回長崎県消防団大会

令和七年六月十四日、第七十八回長崎県消防団大会を西海市の大島文化ホールにおいて、開催しました。

大会には、受章者、来賓、県内消防団等、一般参加者を含め、あわせて約五百名余りの参加がありました。

消防団大会は、県内の消防団員が一堂に会し、消防防災に功績のあった方々の功績を称えるとともに情報交換を行うことによって、消防団員の士気の高揚と消防防災意識の一層の啓発を図り、消防団の活性化に資することを目的としております。

消防協会総裁の大石知事は、表彰を受けられる方々へのお祝いの言葉と、日頃より昼夜を問わない消防団活動に対し、深く敬意を表し、感謝を述べられました。

式典においては、叙勲の披露、知事による表彰の伝達、消防団活動協力事業所の表彰、県民表彰の披露、県消防協会会長による日本消防協会長表彰の伝達、永年の無火災消防団の表彰、退団された消防団長への感謝状の授与などがありました。

これに対し、受章者を代表して大村市消防団の田中研太郎団長が、今後とも、市民、町民の安心・安全のため努力を惜しまない旨の謝辞を、熱意を込めて述べられました。

後半の部では、地元西海市消防団の本部団員の椿ちひろさんによる、意見体験発表がありました。

また、アトラクションとして、大造ブラスバンドによる演奏が披露されました。

そして、地元西海市消防団の永田団長から「消防人の団結のもと郷土を災害から守り、県民の信頼と負託にこたえる」との大会宣言がありました。

結びとして、次回開催市である諫早市消防団の平尾団長が「消防団は、地域防災の要として、住民と協力して災

害の防除に万全を期する」と、力強く決議表明され、大会は盛会のうちに終了しました。

第二十六回 全国女性消防操法大会

令和七年十月二十八日、横浜市内の横浜赤レンガ倉庫イベント広場において、第二十六回全国女性消防操法大会（消防庁・（公財）日本消防協会主催）が開催されました。

この大会は、地域防災力の要として住民から厚い信頼を得ている各都道府県の女性消防隊（女性消防団員を含む）の代表が一堂に会し、消防の基本となる「消防操法」の技術を競うべく二年に一度開催されるものです。

本年は、長崎県代表として、五島市女性消防隊が出場しました。

残念ながら入賞は出来ませんでしたが、見事なチームワークと日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮し、敢闘賞を受章しました。

出場者の皆さん並びに応援の方々、大変お疲れ様でした。

なお、千葉県の柏市女性消防隊が、優勝しました。

また準優勝は、福岡県の筑後市女性消防隊と東京都の八王子市消防団女性消防隊でした。

第二十六回 全国女性消防操法大会に出場して

五島市女性消防隊
隊長　**西村佳子**

令和七年十月二十八日、神奈川県横浜市・横浜赤レンガ倉庫イベント広場。私たち五島市女性消防隊九名は、長崎県代表としての誇りを胸にスタートラインに立ちました。全国から集まった女性消防隊の張り詰めた空気と、会場を包む熱気。その中で、私たちはこれまでの日々全てを、この数分間の操法に込めました。

振り返れば、私たちの挑戦が始まったのは、まだ肌寒さの残る二月。「全国大会出場」という大きな目標を掲げ、訓練を開始しましたが、決して順風満帆とは言えず。普段の生活や仕事と両立しながらの訓練は想像以上に過酷で、慣れない礼式や規律、求められる動作の緻密さに、時には体力の限界を感じ、心が折れそうになる日もありました。五月後半からは、新たな仲間も加わり、途中からの入隊で、覚えなければならないことの多さに戸惑う隊員と、それをどう支え、足並みを揃えていくか悩む既存の隊員。それぞれの立場で葛藤があり多くの課題もありましたが、歩みを止めなかったのは、「出場するからには、必ず良い結果を出したい」という強い意志があったからです。

季節は巡り、日差しが厳しさを増す夏。汗にまみれ、何度も同じ動作を繰り返す中で、九人の呼吸が少しずつ、確実に一つになっていくのを感じました。署員の皆様の熱心で手厚いご指導、そして消防係の方々の細やかなサポートのおかげで、技術だけでなく、消防団員としての精神もしっかりと磨き上げることができた事。又何よりも感謝を伝えたいのは、一番近くで支えてくれた家族の存在です。休日を返上しての訓練や、疲れて帰宅した私たちを温かく迎え入れ、家事や育児をサポートしてくれた家族の理解と協力がなければ、このスタートラインに立つことさえ叶わなかったでしょう。家族こそが、私たちにとって最強の応援団です。

そして迎えた大会当日。本番ではこれまで積み重ねてきた成果を十分に発揮し、どこにも負けないパフォーマンスを披露することができたのではないかと感じております。結果といたしましては、全国の舞台は想像以上に高く厚い壁で、目標である上位入賞には届きませんでしたが、九人の心が一つになり、仲間を信じる強い絆。それは順位という数字だけでは測れない、かけがえのない宝物となりました。

この大会を通じて、私たちは単に操法の技術を学んだだけではなく。一つの目標に向かって仲間と支え合い、困難を乗り越えることの尊さ、周囲の方々への感謝の気持ちを改めて深く心に刻むことができました。応援、又叱咤激励下さった皆様、本当にありがとうございました。この貴重な経験と悔しさを糧に、また再挑戦（リベンジ）の機会があれば、次こそは必ず雪辱を果たしたいと思います。そして何より、この大会で培ったチームワークと精神を、これからの地域防災の要としての消防団活動に活かし、愛する五島の安心と安全を守るために全力を尽くしてまいります。

最後になりますが、私たちの挑戦に関わってくださった全ての方々に、心からの感謝を申し上げます。

第三十回全国女性消防団員活性化長崎大会

令和七年十一月十三日、出島メッセ長崎において、第三十回全国女性消防団員活性化長崎大会を開催しました。

全国各地から約二千五百名余の女性消防団員等が、大会テーマ「来んね！平和の街へ　島々へ～未来へ、長崎でつながる女性消防団～」のもと、一堂に集いました。

基調講演をお願いした髙田明さんは、「夢持ち続け日々精進」と題して、良い時も悪い時もあるからこそ楽しいのが人生であり、前向きに生きていくことが大切だ、そして自分の力で変えられない未来で悩むのではなく、自分の力で解決できることに集中すれば人生は拓けると、熱く語りかけられました。

活動事例発表では、青森県五所川原市消防団、岩手県北上市消防団、広島県内消防団員、愛媛県四国中央市消防団、長崎市消防団の五団体が、防火防災啓発劇では、北海道江別市消防団、鹿児島市消防団の二団体が発表しました。

また、日本消防協会の秋本会長をコーディネーターに、活動事例発表をした五団体の皆さんでパネルディスカッションを行いました。

夜の情報交流会には、約千五百名余りが参加、大いに盛り上がりました。

大会アトラクションは、お昼に、シー・チさんによる二胡・歌・演舞の披露があり、情報交流会では、鶴鳴学園長崎女子高等学校龍踊部による龍踊りと変面師京介さんによる中国変面ショーが披露されました。

第三十回全国女性消防団員活性化長崎大会活動事例発表

長崎市消防団
副分団長　田中福貴子
部長　金山　千尋

長崎市は九州西端に位置する人口約三十九万人の中核市で、世界最後の原爆被災地として国内外に平和のメッセージを発信し続けています。現在、出島メッセ長崎、恐竜博物館、西九州新幹線と新長崎駅、長崎スタジアムシティなど、一〇〇年に一度のまちづくりが進行中です。長崎市は「坂と階段の街」として知られ、平地を囲む山々に家が立ち並んでいます。市内急坂一位の「きゃあまぐる坂」は長崎弁で「とてもきつい坂」という意味です。この地形的特徴から災害活動は困難で、火災発生時は延焼リスクが高いため、日頃からの地域の火災予防活動が極めて重要です。このような坂の街・長崎市民の安全安心を守る長崎市消防団は、四つの方面隊から構成され、十八地区七〇分団一一六部の体制となっています。令和七年四月一日時点の団員数は二、二四三人で、そのうち女性消防団員は七六人います。女性が初めて入団した平成九年から五十六人増加しています。女性消防団員の配置先は、防火広報や応急手当の普及啓発等を行う広域支援分団と、災害現場等へ出動し活動を行う基本分団の二種類があり、広域支援分団に三十人、基本分団に四十六人の女性消防団員が在籍し活動しています。

〈広域支援分団の活動〉

広域支援分団は、幼稚園や保育園、高齢者サロンなどで防火広報等を行っています。炎が燃える仕組みや「ストップドロップアンドロール」を自分たちで作成した教材を使用し寸劇を交えながら教えています。夏場には「花火教室」を開催し、消防かるたや紙芝居を活用して、楽しみながら防火防災に関心を持てるよう工夫しています。女性消防団員ならではの優しさと親しみやすさで、子ども達との距離を縮め、より効果的な活動を可能にしています。

また、十四人の団員が応急手当普及員として認定され、救急講習を実施しています。女性限定の救急講習会も開催し、女性特有の配慮が必要な場面において、同性である女性消防団員が指導することで、参加者がより安心して受講できる環境を提供しています。さらに、地元の夏祭りや大学の学園祭などで入団促進を呼びかけています。

〈基本分団の活動〉

基本分団では、火災をはじめとする各種災害への対応を行うとともに、ポンプ操法訓練や消火栓の点検を実施しています。男性団員と共に各種訓練に積極的に参加し、性別に関係なく、同じ消防団員として高い技術と知識の習得に努めています。令和四年度には長崎県ポンプ操法大会に一番員として出場し準優勝を果たしました。約三か月の厳しい訓練を経て、分団の仲間と共に成し遂げた成果であり、女性も男性同様に消防団で活躍できることを証明できたと考えています。また、様々な地域のイベントに参加することで、地域住民と顔の見える関係を構築し、有事の際に円滑な対応ができるよう努めています。

〈課題と今後の取り組み〉

一方で、家庭と育児との両立が難し

い状況や、女性団員同士のつながりや相談の場が少ないことが課題です。今後は、短時間やイベント単位など柔軟な活動形態を検討するとともに、家族や職場の理解を得るための広報・啓発を図っていきます。また、交流会や研修会を通じて、女性団員同士のネットワーク強化を進めます。今後、女性団員には、女性独自の視点とアイディア、そして女性ならではの細やかな配慮と対応力が求められています。活動のやりがいや地域貢献の素晴らしさ、防災スキル習得の魅力を広く伝え、より多くの仲間を増やしていきたいと考えています。長崎市消防団の女性消防団員は、従来の消防団活動の枠を超えて、地域防災の新たな可能性を切り開いていきます。「今できる私たちにしかできないこと」を一つ一つ積み重ねながら、地域の安全安心な街づくりに貢献していきたいと思います。

全国消防殉職者慰霊祭

第四十四回全国消防殉職者慰霊祭が、九月十一日、ニッショーホールにおいて、しめやかに行われました。

式典では、秋本日本消防協会会長の式辞のあと、石破内閣総理大臣、村上総務大臣及び遺族代表等が、新しく祀られた五柱を含む五千七百九十五柱の御霊に追悼のことばを捧げられました。

その後、参列者の方々による献花が、厳粛のなかに執り行われました。

最後に、（一社）江戸消防記念会により、木遣り（鎮魂の歌）が披露されました。

長崎県消防殉職者慰霊祭

令和七年十一月二十九日、長崎県消防殉職者慰霊祭が、長崎県庁一階の大会議室において、県との共催により、厳粛に行われました。

この慰霊祭は、防災の任務遂行中に不幸にして尊い犠牲となられた長崎県内の消防殉職者並びに消防協力受難者の功績を称え、深く敬意と感謝を捧げるとともに、これらの方々の冥福を祈り、在りし日の面影を慕い、志を同じくする者の範とすることを趣旨とし、

ご遺族及び消防関係者等の出席のもと行われました。

会場には、明治時代からの消防殉職者三百八柱が祀られ、黙祷の後、県消防協会総裁の長崎県知事の式辞に続き、県議会議長、県市長会会長及び県消防長会会長の慰霊のことばをいただき、その後、ご遺族や消防関係者などから献花が行われ、約百十名の出席者が、ご冥福をお祈りしました。

最後に、県消防協会の川上会長が、お礼を述べるとともに、郷土の安全・安心を確保するため、一層の努力を重ね、消防活動に邁進することを誓いました。

第四十八回 消防職員意見発表会最優秀賞

「こころの救護法」

平戸市消防団　大島出張所
福田　真生

五百二十九。

この数字の示すことが、皆さんにはわかりますか。これは昨年、残念ながら自ら命を絶ってしまった小学生から高校生までの人数です。日本は他国と比べ、子どもの自殺率が高く、昨年は過去最多となっています。現在日本において社会問題にもなっている子どもの自殺。この問題をどうにか食い止める事は出来ないか、そして子どもの未来の為に私たちに何か出来る事はないか考えてみました。

私は中学生の時、家族の一人を失いました。それはあまりにも突然で、その時の記憶は未だ鮮明に脳裏に焼き付いています。今思い返すとこころの病を患っていた事は明白でした。しかし、当時の私は、こころに病があることは知っていたものの、症状や対処法は全く知らず、当然、家族の異変に対処する事は出来ませんでした。あの頃の私にこころの病に関する知識があり、適度にコミュニケーションを図る事や気分転換に誘い出す事が出来ていれば、もっと一人で考える時間を減らす事が出来ていれば、もっと専門医の治療を進めていれば……今でも残るのは後悔ばかりです。

病名を知っていても、症状や対処法を知らないと何の意味もない。これは、現在深刻となっている子どもの自殺に関しても同じ事が言えるのです。学校でこころの病について学習するものの、実際に罹患者と接する事はなく経験がない、だから友達の異変にも気づけない。仮に異変に気付けてもどうしていいのか分からないというのが現状です。自殺率を低下させるためには、この現状を変えることが必要だと思うのです。

そこで私が目を付けたのは普段、業務として行っている救護法指導。子ども達にこころの病に関する更なる知識を伝えるチャンスの場であると考えました。題して「こころの救護法」。心

肺蘇生法を指導する一般的な救護法指導に加え、こころの不調を訴えている人の特徴や症状を講義の中で教え、実際に接し方、対処法について実技を用いて学んでもらう。そうすることでこころの病に対する理解が深まり、早期発見や早期対応に繋がるのです。

さらに、救急現場での経験や実体験をもとに自殺により遺された家族の様子や想いを伝えるのはどうでしょうか。実際に私は、自分が原因の一つとなった可能性、自分だけが生きていく事に対する罪悪感など様々な事を考え、死にたいと思った時期もありました。この様に実際の遺族の苦悩を伝える事は自殺を思いとどまらせる鍵になり得るのではないでしょうか。

こころの病の専門家ではない私たち消防に、この様な形で出来る事は僅かかもしれません。しかし、スクールカウンセラーや専門医、行政の担当部署と協力体制を構築し、こころの救護法を行う中で感じた子どもの違和感や子どもの自損行為による救急事案の情報を提供することで、これら専門家の速やかな介入が可能となり、救える命があるかもしれないのです。

こころの救護法で私の様に無知だった事で後悔する人を無くしたい。希望ある未来を自ら手放す子どもを無くしたい。私はこころの救護法で貴方のこころに寄り添いたい。私があの時、周りに救われた様に。

第七十八回 長崎県消防団大会意見発表

西海市消防団
団員　椿　ちひろ

皆様こんにちは。西海市女性消防団の椿と申します。私は、平成二十九年に市役所入庁と同時に西海市女性消防団へ入団し、今年で九年目を迎えます。西海市女性消防団は市役所職員を中心に市内の会社員、主婦など、二十代から六十代までのメンバー十八名で活動を行っています。普段はイベントでの広報活動や火災予防パレードのアナウンス等の防災啓発活動を行っていますが、今回は令和五年十月に長崎県代表として初出場しました「第二十五回全国女性消防操法大会」への出場にあたって、体験した内容を発表いたします。よろしくお願いいたします。

当初、令和三年に開催予定の大会が新型コロナウイルスの影響で延期となり、いつ開催されるかわからない不安な状況が続きました。結果、令和五年十月に大会が開催となり、延期となった二年間で家庭環境の変化や退職などの職場環境の変化で大会に参加予定の団員が減りましたが、令和五年の四月までに市役所の職員を勧誘し、新たに六名の団員が入団し、パワーアップしてポンプ操法に向けてスタートを切ることができました。

操法大会の訓練は、業務終業後の午後六時半から二時間行いました。一月から三月までは西海市消防団長のご指導の下、基本となる礼式訓練を行い、四月からは消防署の皆様のご指導の下、実際に軽可搬ポンプやホースを用いて訓練を行いました。毎回の練習には、西海市の各方面団の皆様に練習中のアドバイスやホース巻き等、多くのサポートを行っていただきました。

六月まで全体を通しての要領の習得に励み、七月からは集合から放水まで一連の練習を開始しました。全国女性操法大会の標準タイムは五五秒となっていますが、私たちの初めての計測タイムは一〇〇秒を超えており、その差は四五秒近くもあり、残り三ケ月でタイムを縮めることが出来るのか不安になりましたが、そんな時も消防署、西海市消防団の皆様の励ましの言葉やサポートで練習を続けることが出来ました。放水訓練を始めてから一ケ月後の八月には、練習の度にタイムが縮まり、自分達の成長を感じるようになりました。

八月末には前回大会出場の南島原市女性消防団の皆様と合同訓練を行いました。猛暑の中、実際の大会での経験を踏まえ、たくさんの助言をいただきました。夜には、激励会を開いてくださり、貴重なお話を沢山伺うことが出来ました。また、それぞれの番員のメンバー宛に手紙をいただき大会での心の支えになりました。「残された時間でやれることを最大限しよう」と力が湧いてきました。

九月からは、佐世保市消防局東消防署の方のご指導を頂き、各番員の動きをより正確に訓練し、タイムも標準タイムを切れるようになりました。練習回数も週三回に増え、疲労が蓄積されていく中での練習となりましたが、声を掛け合いながら、また、頑張る仲間の姿に力をもらいながら、みんなで乗り越えることが出来ました。職場の方の応援も力になりました。

十月は消防署員の方に事前審査をしていただき、「減点項目をなくす」ことを目標にラストスパートをかけました。また、本番に備え、体調管理にも気を配りました。東京では、会場のチェック等、入念な準備を重ねて状態

を整えました。大会本番前には、スローガンの「WE CAN DO IT！！(私たちは絶対にやれる！！)」を合言葉に円陣を組み、結束力と高めて操法に挑みました。

結果は全体の十八位で目標としていた上位入賞には届きませんでしたが、チーム一丸となって長崎県代表として堂々と操法を披露できました。

ポンプ操法大会に向けて、例年より多くの時間を団員とともに過ごし、以前より結束力が増したと感じています。また、西海市の各方面団の方にたくさん支えていただき、私たちも自分たちにできる形で西海市の消防活動に関わっていきたいと思うようなりました。

最後にこのような素晴らしい大会に出場できたことは、私たちにとって一生の思い出であり、貴重な経験となりました。大会までの期間で学んだことを今後の活動に繋げていきたいと思います。ご指導いただいた消防署の皆様、団長をはじめとして各方面団の皆様、応援してくださった職場の皆様、地域の皆様、支えてくれた家族や友人に心から感謝申し上げます。

最後になりますが、今年の十一月十三日に出島メッセ長崎で、第三十回全国女性消防団員活性化大会が開催されます。全国の女性消防団員が一堂に集い、日頃の活動や取り組みについて情報交換・交流を通じて幅広い知識の習得と視野を広げることで女性消防団員の活動をより活性化させ、地域防災力の向上を図ることを目的に開催されます。長崎大会のテーマは「来んね！平和の街へ　島々へ　～未来へ、長崎でつながる女性消防団～」です。長崎県で開催されるこの貴重な機会に、全国からお集まりいただく皆さんにとって有意義な時間となりますよう、尽力して参りたいと思います。ご清聴いただき、ありがとうございました。

令和七年度 理事会・評議員会情報

第一回理事会　(五月十五日)

(第一号議案)
令和六年度の事業報告が承認されました。

(第二号議案)
令和六年度の決算が承認されました。

(第三号議案)
令和七年度資金運用管理方針が承認されました。

(第四号議案)
第七十八回長崎県消防団大会について、原案どおり承認されました。

(第五号議案)
令和七年度消防殉職者慰霊祭の実施について、原案どおり承認されました。

(第六号議案)
第二十六回全国女性消防操法大会の出場順等について、原案どおり承認されました。

(第七号議案)
顧問の選任について、原案どおり承認されました。

(第八号議案)
定時評議員会の招集について、原案どおり承認されました。

(その他)
消防団大会における表彰の選考、第三十回全国女性消防団員活性化長崎大会についてなど、諸般の報告がなされました。

定時評議員会　(五月二十日)

(第一号議案)
令和六年度決算が承認されました。

(第二号議案)
任期満了に伴う評議員の選任について原案どおり承認されました。

(第三号議案)
任期満了に伴う理事及び監事の選任について原案どおり承認されました。

(その他)
理事会決議事項ほか諸般の報告がなされました。

臨時理事会　(五月三十日)

川上清記会長、山口照己、平尾幸祐、谷口哲男、安川昭彦各副会長、松尾健自常務理事が選任されました。

(第一号議案)
補欠理事選任に伴う評議員会を書面で決議することが承認されました。

第二回理事会　(十一月二十九日)

(第一号議案及び第二号議案)
令和八年度事業計画案と収支予算案は、原案どおり承認されました。

(第三号議案)
令和八年度の消防協会運営費に係る市町負担金について、原案どおり承認されました。

(第四号議案)
第七十九回長崎県消防団大会の開催について、承認されました。

(第五号議案)
第三十九回長崎県消防ポンプ操法大会について、承認されました。

(その他)
第二十六回全国女性消防操法大会の結果等について報告がありました。

評議員会　(十一月二十九日)

理事会で決議された事項のほか、諸般の報告がありました。

情報交流会　(十一月二十九日)

理事、評議員参加のもと、情報交流会を開催しました。

消防団員指導員課程研修

令和七年十月八日から九日まで、令和七年度消防団員指導員課程研修を、県内の七市の消防団から十八名の参加により、長崎県消防学校において実施しました。

この研修は、日本消防協会の委託によるもので、消防団運営の活性化に資するため、消防学校の協力を得て、消防団の中に指導者となる指導員を養成し、地域防災の要である消防団員の充

実強化を推進するものです。

訓練一日目は、県消防協会の安川副会長による実体験をもとにした「幹部心得」の講話は、入校生とコミュニケーションを図りながら実施されました。

その後の訓練礼式、火災防ぎょ（ホース延長）については、教官による展示を行ったあと、入校生主体の訓練を実施し、他の入校生に指導員役として指導事項を考え、伝える場面を設けるなど、指導員の育成を図りました。

さらに救助・救命活動においては、消防団員として、要救助者の救出時における搬送方法について指導しました。

二日目は、座学で、「現場指揮・安全管理」「災害情報収集・伝達」を実施しました。座学では、現場指揮の必要性、安全管理の重要性、災害時の情報収集などの難しさを感じていただき、動画資料で安全管理における着眼点の確認や注水方法の違いによる火災室に及ぼす影響を共有しました。

午後は「火災防ぎょ（ポンプ運用）」を実施し、ポンプ車及び小型ポンプを使用して、有圧及び無圧水利の違い、中継要領、筒先統制の要領などの指導をしました。

いずれの訓練についても、積極的に参加していただき、学生からは「指揮者としての心構えができた」「各消防団において指導員として広めていく」などの意見がありました。

この研修の実施により、多くの指導員を県内消防団に送り出すことができ。その成果が得られたものと思われます。

市町消防団担当者会議

令和七年七月三十日、長崎県市町消防団担当者会議を、県内二十市町から二十一名の参加のもと開催しました。

会議では、日本消防協会から藤中部長、小鳥居課長、大河原副主幹の三名をお招きし、消防個人年金・福祉共済や火災共済について、説明を受けました。

また、県の中村主事及び県協会から全国女性消防団員活性化長崎大会について説明がありました。

女性消防団員研修会

第二回消防団勧誘対策研修会及び第二十三回長崎県女性消防団員研修会を令和八年二月十四日、長崎市の会場において開催しました。

研修会には、県内十六市町の消防団から、消防団長及び女性消防団員等約八十名の参加がありました。

今回は、宮崎県延岡市消防団分団長の富士持正美さんに女性の目線を生かした消防団運営等についてご講義いただいた後、参加者の皆さんによる、女性消防団員のやりがいや今後の女性消防団員の在り方等について考えていただくグループワークを中心とした研修を企画しました。

グループワークの会場では、活発な意見が交わされ、最後に、各グループの代表から、それぞれの意見の集約を発表していただき、大いに盛り上がりました。

このあとの意見交換会には約六十名が参加しさらなる交流を深めました。

第五十二回消防団幹部特別研修

令和八年一月十三日（火）～一月十六日（金）

受講者　長崎市消防団　副団長　松尾　博信

第二十五回消防団幹部候補中央特別研修（男性消防団員の部）

令和八年一月二十八日（水）～一月三十日（金）

受講者　佐世保市消防団　副分団長　前田　信士

令和７年１月～12月の火災概況（速報値）［長崎県消防保安室調べ］

区分	令和７年（A）	令和６年（B）	増減 A－B＝C	増減率（%） C／B×１００
出火件数	416	375	41	10.9
（建物）	200	178	22	12.4
〈住宅〉	119	84	35	41.7
（林野）	16	5	11	220.0
（車両）	34	28	6	21.4
（船舶）	6	6	0	0.0
（その他）	160	158	2	1.3
焼損棟数	305	305	0	0.0
り災世帯数	204	189	15	7.9
り災人員	419	414	5	1.2
焼損面積（建物（㎡））	20,531	13,749	6,782	49.3
（林野（a））	751	19	732	3852.6
損害額（千円）	877,280	602,175	275,105	45.7
死者	21	22	△ 1	△ 4.5
〈65歳以上〉	17	12	5	41.7
〈住宅〉放火自殺者を除く	18	10	8	80.0
負傷者	56	63	△ 7	△ 11.1

注）「死者」には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。

●出火原因（ワースト5）

年	1位	2位	3位	4位	5位
令和６年	たき火（97）	たばこ（25）	放火（20）	コンロ（19）	電灯・電話等の配線（17）
令和７年	たき火（89）	たばこ（37）	コンロ（23）	放火（21）	電灯・電話等の配線（14）

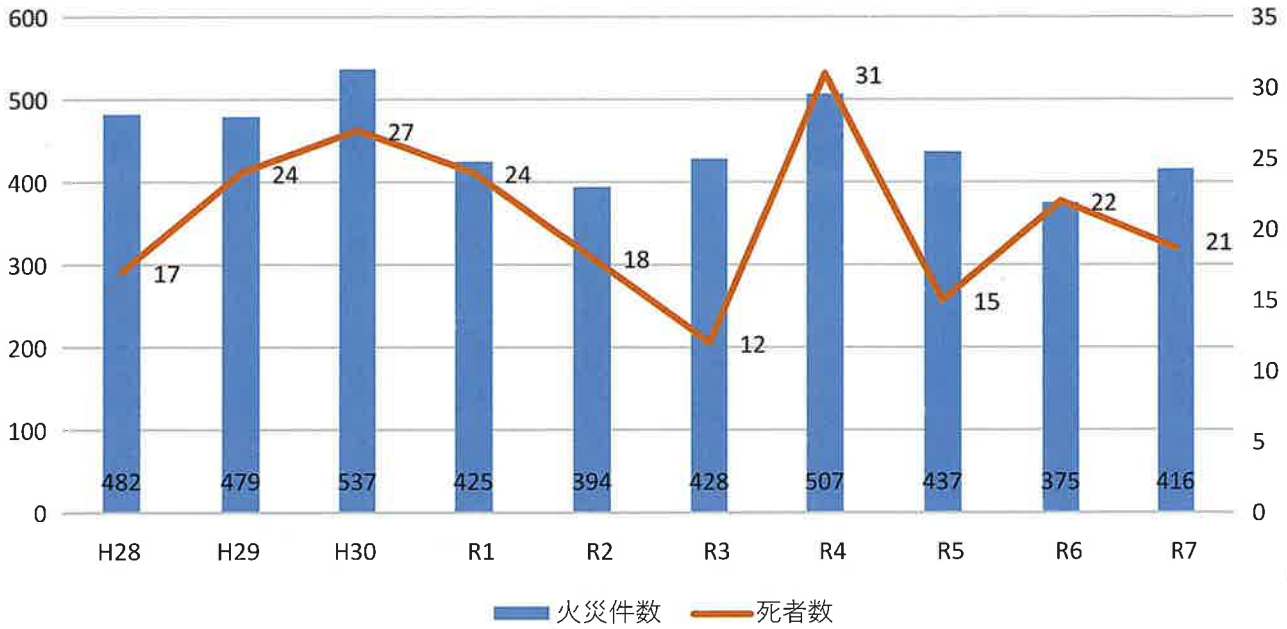
注１）畑で枯れ草等を燃やす場合も「たき火」という。
注２）「放火」には「放火の疑い」を含む。

令和７年中の火災件数（月別／火災種別）（速報値）

月	合計	火災件数 建物計	住宅計	住宅	併用住宅	共同住宅	その他	林野	車両	船舶	航空機	その他	焼損面積 建物床面積（㎡）	林野（a）	火災損害額（千円）	焼損棟数	り災世帯数	り災人員	負傷者	死者
１月	42	22	12	11		1	10	3	3			14	1,258	3	132,662	41	26	65	4	3
２月	41	15	10	7	2	1	5	2	2			22	1,963	1	109,275	38	26	54	6	3
３月	53	27	18	11	2	5	9	3	1	3		19	1,734	4	107,678	34	21	43	8	4
４月	35	20	11	7	1	3	9	1	2			12	1,930	720	108,766	33	15	33	9	2
５月	27	15	10	8	1	1	5		3			9	688		51,263	22	15	30	7	
６月	22	12	5		1	4	7		4			6	8,940		230,770	15	10	19	3	
７月	40	13	9	6	1	2	4	5	5			17	1,485	21	21,465	22	21	41	8	2
８月	36	16	6	3	1	2	10		3	1		16	1,096		47,046	25	13	26	3	1
９月	20	13	8	7		1	5		1	1		5	355		9,927	14	10	19	3	0
10月	30	14	10	7		3	4		2			14	320		14,654	16	11	17		3
11月	44	15	8	5	1	2	7	1	5			23	280	3	16,263	22	16	41	1	1
12月	26	18	12	8	1	3	6	1	3	1		3	483		27,511	23	20	31	4	2
計	416	200	119	80	11	28	81	16	34	6	0	160	20,531	751	877,280	305	204	419	56	21

※「住宅火災」の件数は「住宅」、「併用住宅」、「共同住宅」の合計数となる。

令和７年中の火災件数と火災による死者数



令和８年度　主な行事予定

行　事　名	期　　日	場　　所
第１回理事会	５月14日(木)	長崎市
定時評議員会・臨時理事会	５月29日(金)	長崎市
第79回長崎県消防団大会	６月14日(日)	諫早文化会館
第39回長崎県消防ポンプ操法大会	８月２日(日)	県消防学校
第45回全国消防殉職者慰霊祭	９月10日(木)	ニッショーホール
第31回全国女性消防団員活性化北海道大会	９月25日(金)～26日(土)	札幌市
第31回全国消防操法大会	10月31日(土)	東京臨海広域防災公園
消防団員指導員課程研修	11月10日(火)～11日(水)	県消防学校
長崎県消防殉職者慰霊祭	11月14日(土)	長崎市
第２回理事会・評議員会	11月14日(土)	長崎市
消防出初式	１月上旬	県内一円
第53回消防団幹部特別研修	１月12日(火)～15日(金)	東京都
第26回消防団幹部候補中央特別研修（男性・女性）	１月27日(水)～29日(金) ２月17日(水)～19日(金)	東京都
第79回日本消防協会定例表彰式	３月５日(金)	東京都

消 防 団 員 数

（人）

消防団名	消防団員数	消防団名	消防団員数
長 崎 市	2,237	雲 仙 市	1,394
佐世保市	1,399	南島原市	1,205
島 原 市	562	長 与 町	282
諫 早 市	1,304	時 津 町	228
大 村 市	568	東彼杵町	323
平 戸 市	957	川 棚 町	230
松 浦 市	763	波佐見町	265
対 馬 市	1,288	小値賀町	133
壱 岐 市	783	佐 々 町	155
五 島 市	898	新上五島町	733
西 海 市	1,059	合　　計	16,766

（令和７年10月１日現在）

画　松本 悠辰（まつもと　ゆうしん）さん（雲仙市立大塚小学校六年）公益法人 長崎県消防協会　令和七年度長崎県防火ポスターコンクール最優秀賞